

【訂正】受注高・受注残高の一部訂正

当社が開示した受注高・受注残高の一部に誤りがあり、訂正をいたしました。
詳細につきましては、2016年10月28日付け決算短信をご覧ください。
なお、訂正項目は受注関連のみであり、監査対象である財務諸表への影響はございません。
アニュアルレポート2012の訂正箇所については、次ページの正誤表をご参照下さい

- 原因：
米国子会社において、特定の取引事象に関して、受注高を二重に集計するプログラム上の不具合が生じていたため、2005年以降に当社が開示してきた受注高および受注残高に誤りがありました
- 訂正範囲： 有価証券報告書等の公衆縦覧期間及び修正額の影響度に鑑み、
2011年3月末以降の受注残高、2011年4-6月期以降の受注高を訂正いたしました
- 影響度： 連結受注高に対して0.4%過少～1.9%過剰の範囲で差額が生じておりました
2016年6月末における受注残高の2.8%（104億円）が過剰に報告されておりました
- 再発防止：
他地域においては問題が無いことを確認しておりますが、今後は監査対象外である項目においても、いっそうの業務プロセスの検証、数値確認を精緻に行い、再発防止に努めてまいります

【訂正】受注高・受注残高の一部訂正

■ 19ページ 財務概況、損益状況、売上の状況

【訂正前】

また、パソコンの販売低迷によるDRAMの過剰在庫、また、テレビの販売低迷による液晶パネルの過剰在庫により、当社の顧客である半導体メモリメーカーおよびパネルメーカーの投資意欲が低下し、当期の受注高は前期比26.4%減少の5,410億円、当期末の受注残高は29.8%減少の2,167億円となりました。

【訂正後】

また、パソコンの販売低迷によるDRAMの過剰在庫、また、テレビの販売低迷による液晶パネルの過剰在庫により、当社の顧客である半導体メモリメーカーおよびパネルメーカーの投資意欲が低下し、当期の受注高は前期比26.4%減少の5,406億円、当期末の受注残高は30.0%減少の2,159億円となりました。

■ 20ページ 財務概況、セグメント別の状況、半導体製造装置

【訂正前】

当期の受注高は前期比23.0%減少の4,376億円、期末の受注残高は前期比17.6%減少の1,887億円となりました。

【訂正後】

当期の受注高は前期比23.0%減少の4,372億円、期末の受注残高は前期比17.8%減少の1,880億円となりました。